

# 海老名郷土かるた

## ことしは「うさぎ」どし

ことしの干支「卯」に合わせ、市内に点在する史跡や文化財などを詠んだ「海老名郷土かるた」から、「うさぎ」の札を紹介します。由来の場所には歌が書かれた擬木柱があります。



擬木柱マップ



鳳勝寺は、昭和17（1942）1944年、相模ダム建設で水没した旧津久井郡日連村勝瀬（現・相模原市緑区）の移転とともに現在地に移されました。「新編相模国風土記稿」では功雲寺（相模原市）の末寺とされ、室町時代中頃に建立されたと考えられています。

【擬木柱所在地】勝瀬10-1（鳳勝寺入り口付近）

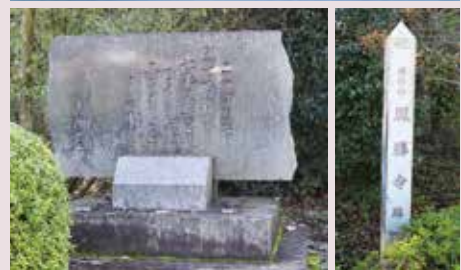
移り来た 勝瀬とともに 鳳勝寺



### 勝瀬と鳳勝寺跡

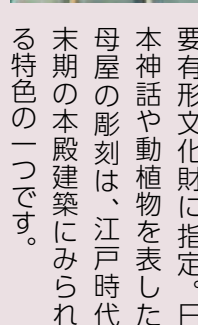
相模ダム建設の工事で移住を余儀なくされた30戸ほどの人たちが故郷の名とともに海老名に移り住み、地名を存続させました。海老名に勝瀬ができた始まりです。

現在、相模原市の鳳勝寺跡地には、ふるさとをしのぶ石碑が建てられています。



### 八坂神社本殿

昭和20（1945）年、先に移されていた鳳勝寺の南側に旧日連村勝瀬から移築されました。大切に管理してきた地域住民の精神文化を伝える貴重な建造物として、平成10（1998）年、市指定重要有形文化財に指定。日本神話や動植物を表した母屋の彫刻は、江戸時代末期の本殿建築にみられる特色の一つです。



### 「海老名郷土かるた」ダウンロード版

市ホームページに印刷用かるたを掲載しています。印刷・作成してお楽しみください。作り方は市ホームページをご覧ください。



郷土かるたページ

郷土史の道を開いた 中山翁



産川の地名残した 護王姫



### 温故館

相模国分寺跡の史跡指定に合わせ、国分寺や石器時代の遺物を収集・陳列する遺物陳列所として、大正10（1921）年、尋常高等海老名小学校（現・海老名小学校）に初代「温故館」を開館しました。

その後、再建や移設を繰り返し、昭和57（1982）年、旧海老名村役場庁舎を改修し、現在の「市立郷土資料館海老名市温故館」となりました。



### コウホネ

産川橋付近の「産川せせらぎ公園」そばには、亀島自然公園の湧水を利用したせせらぎがあります。春から10月ごろまで、県の絶滅危惧種に指定されているスイレン科のコウホネが、黄色い可憐な花を咲かせます。



【擬木柱所在地】上今泉6-20-11 付近

室町時代、今泉に「色伊予守六郎」という武将の館・今泉館がありました。足利幕府の派遣軍が攻めてきた永享の乱（1438年）の時、妊娠中の妻の護王姫は身を隠そうと、館から産川の方へ向かいました。その途中の川べりで出産したという伝説から、産川といわれるようになったといえます。

産川橋のそばには江戸時代に建てられたと伝わる護王姫の碑があります。

【擬木柱所在地】国分北2-13-40（龍峰寺内）



初代「温故館」



建築時の大正7（1918）年当時はまだ希少だった洋風木造二階建て。飾り破風の玄関ポーチが特徴的な近代建築です